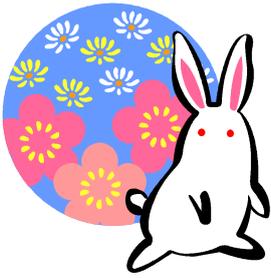


学校だより



おっぴ

半田市立乙川東小学校

第11号

令和5年1月10日

発行責任者：福島 富美

校訓 たくましく 心ゆたかに 大きくのびよう

あけましておめでとうございます
今年もよろしくお祈いします

今年の干支は癸卯（みずのとう）です。「癸」は一つの物事が収まり次の物事への移行を表し、「卯」は繁殖することを表しているようで、その両方を備えた「癸卯」年は、これまでの努力が実を結び、勢いよく飛躍する年といえそうです。ここ数年、世界中を混乱させた感染症に、学校生活も大きな影響を受けてきました。しかし、その中であっても、子どもたちは日々考え学んできました。それらが大きな飛躍につながることに楽しみます。

さて、始業式では、子どもたちに「ありがとう」の言葉について話しました。

（前略）「ありがとう」という言葉は不思議な力をもった言葉だと思います。言われた方はもちろん、言った方も幸せな気持ちになるからです。そう思っているいろいろな調べてみると、「ありがとうと思う心」の反対は「あたりまえと思う心」と言っている人がいました。なるほど、「やってもらってあたりまえ」と思っている人は「ありがとう」の気持ちは生まれませんね。（後略）

学校で、掃除の時間に「きれいにしてくれてありがとう。」と声をかけると、10人中10人がますます一生懸命に掃除をしてくれます。恥ずかしそうな顔はしても、嫌な顔をする子は一人もいません。本当に「ありがとう」は魔法の言葉だと思います。

もともと「ありがとう」＝「有り難く」であり、「めったになく貴重である」という意味を表しているそうです。そして、お釈迦様が、人間に生まれてきたことはどれだけ貴重なことであるかということを弟子に説き、その感謝と喜びを伝える言葉としたのが語源だという説があります。生きていること自体が「ありがとう」なのですね。

3学期は学校の1年が終わる学期であり、子どもたちにとってそれぞれの1年を振り返る機会が多くなります。その中で、自分が新しいことを学び、元気に成長していることをあたりまえのことと思わず、そこにたくさんの人の思いやりや手助けがあることに気づいてほしいと願います。もちろん、子どもたちだけではありません。まず、私たち大人が感謝の気持ちを忘れずに、それを言葉にして「ありがとう」と伝えていきたいものです。

